

1980年4月15日 (火曜日)

SAKだより

神奈川県スキー連盟
横浜市神奈川区金港町5-13
電話 045(453)5435
発行者: 笹貫敏男
編集者: 中村 孝

'79 SAK シーズン 全行事終了

例年になく雪不足にたられた今シーズンも色々閉幕がせまる。シーズンのトップ行事である指導員研修会から、3月末の強化部記録会まで種々のエピソードを残しながら雪上の全行事が終了した。

また今シーズンより採用した云々より協力願うことになった各種大会の自主運営も傘下各団体のご指導のもとに一応の成果が得られたものと思う。具体的内容反省事項等については別の機会にふれることにするが、いづれにしても諸物価上昇の際、スキーの世界でも全く同様で今後は益々「受益者負担の原則」で自主運営せざるを得ないことを再度会員全員で確認しておきたい。

も、改めて全行事が無事終了したことを報告してSAK傘下諸団体の役員諸氏並びに会員諸氏のご協力に感謝いたします。

- SAK組織概況
- 加盟団体 一五協会
 - 所属団体 一六八団体
 - 会員登録 三、九五〇名(概算)
 - 正指導員 一三七名
 - 準指導員 五七一名
 - 有資格者 六〇名
 - 公パト 二四名
 - 競技関係 三三名

指導員研修会 無事終了?

オーバーに云えば、今世紀始まって以来、とまでいわれた雪不足は十二月になっても一向にその気振りが見えないうち、人工降雪機やらで大きき、この様な状況の中で、恒例の指導員研修会が開催された。

- Aコース 12月22日~23日
- 戸隠+車山高原
- Bコース 1月5日~6日
- 万座

この数年は実はいやな年であった。毎年々雪の心配をし高気圧の動きを気にしつつもかえる研修会。昨年は当日になって白いペンキが大手を振って日本にやって来たから良かったが、今年はどうしたか、ストライキもやってたのであろうか、ストなら五月ごろにすればいいものを。どこの世界にもあるもの、ストやぶりがいた

「車山ペンキKK」
最新のマシンをそなえみんなが休んでる時に、一人白いペンキをふりまいて、四方八方を山にかこまれた車山の一角に白雪を見つけた。何ヶ月ぶりかぶりでも雪の感触はまた何とも言われぬ感激がある。二百名もが雪を求める姿、滑れた喜びの声は、アルプスの山々にこだましたとも思われた。

「ワイナナス がほほえんだ」
我々雪男の心をくすぐるこの言葉のひびき、ワイナナス、実にいい。ホテルの全がワイナナスという感じあり。少々ほめ過ぎだろうが、夕食もよかった、あのピンク色の馬さし、そしてビールのホップのほろりがき、うまいからがまんをしてようやく聞く程度までバラエティーにとんだカラオケ大会、雪をちかなくといよ、そんなことをちかちかと思ったり。

「シーハイル 車山にこだます」
白いペンキなんか来なくともいいぞ。みんなもまたよ。すばらしい車山だ。酒も美味しい景色もいい。布施さんの声も感激にふるえていた。我がSAKの友、車山よ、また来るぞ、車山もほほえんでいたよである。

「ワイナナス がほほえんだ」
一日になってもペンキのストが続いてるらしくいつに雪をふらせない。しかしここは西武が雪をどどんと集めて来る。参加者七十名、交通の関係で開会をおくらせてのスタート。

「ワイナナス がほほえんだ」
片岡先生しきりに「またまた」の大声を飛ばす。実に力が入っている。湯煙を見ながらはやくひとふろやりたいな。一杯もい。

「ワイナナス がほほえんだ」
「酒が待っているからスキーをやつとるんだい」なんと言う人がいたかも。

「ワイナナス がほほえんだ」
トに長い列、さすが指導員とは姿はゆりの花ういよいよエイトマンかな、スパーマンかな、実にさつそうとして、久しぶりの滑降だもんね、浅間の煙を見ながら、万座との別れだ。いよいよシーズンのはじまり、シーハイル。

「ワイナナス がほほえんだ」
湯の中で瀬古をみかける、スキーなんかやって足をいためるなよ、みんなであらぬ心配をして、サテンをせしめたり。

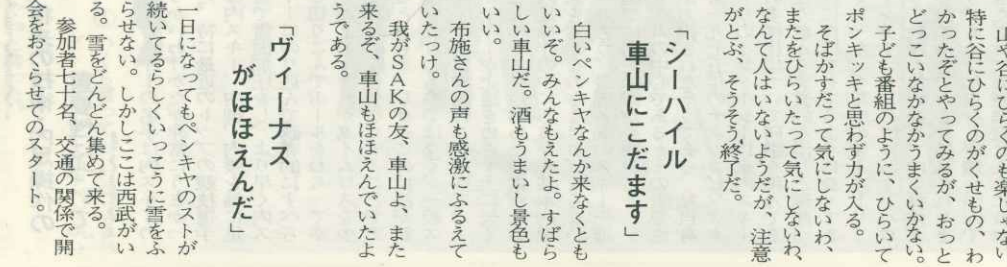
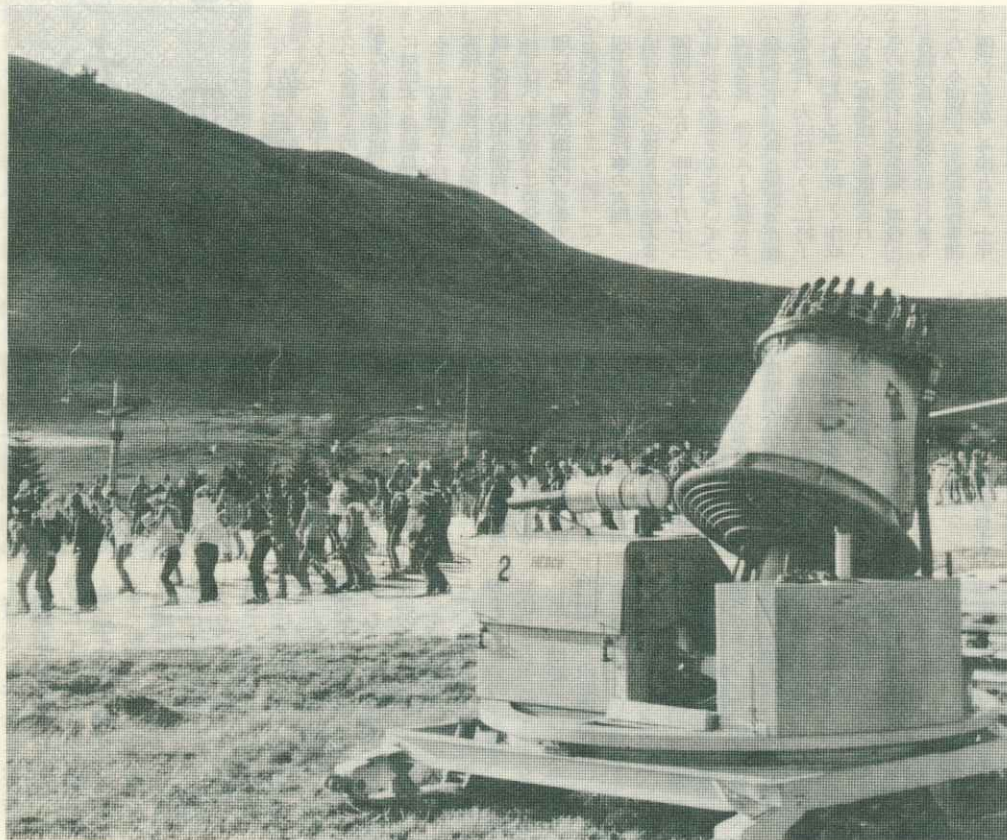
「ワイナナス がほほえんだ」
実はスキーをしないで毎日走っていたとか、酒だめ、甘いものだめ、天下の早大の先生におこられおこられ走つとる瀬古君を見ていると酒なんか飲んでいていいのかなと思いつつも一杯、いや、瀬古がなげられ。

「ワイナナス がほほえんだ」
スキーヤーの最高峰、正指導員に合格しました。
根本孝夫(日本電気相模原・国峰利朗(横浜市教職員)・島中淳太(茅ヶ崎・浅見茂(テイベン)・中野善次郎(SOS)・芦川布朗(てんぐ)・佐藤勝雄(ボアレス)・土田吉明(電特)・清水明(山手)・及川城司(横浜クローツラー)・本多忍(横浜市役所)

「ワイナナス がほほえんだ」
山や谷にひらくのも染じやない、特に谷にひらくのがくせもの、わかったぞとやってみるが、おとどっこいなかなかうまくいかない。子ども番組のように、ひらいてポンキッキと思わす力が入る。

「ワイナナス がほほえんだ」
そばかすだつて気にしないわ、またをひらいたつて気にしないわ、なんて人はいないよだが、注意がとぶ、そうそう終了だ。

「ワイナナス がほほえんだ」
雪が来た
一月六日、雪である、第五リフ



準指導員への道

あるアホな男の記録

S 55年3月 東芝小向スキー部 井口誠男

プロローグ

小雪ちたつく薄明りの小道を行く。キョッキョッと小気味良い音をたて小道を行く。かたにはスキーをかたいで小道を行く。この肌を刺す寒さ。この一面のなんとも言えぬファンタジックな世界も日頃都会では味わえぬと思うと、雪を知り、スキーを知った、そして、今、そのまっただ中にある自分を物語の主人公にしてしまう。彼は深い雪の中へ、ギャップの中へ体を投げこみ、全身でおよく、その身体は雪の中へとけこみ、心は自然の中へとけこむ。そしてまっ白、まっ白な世界。...

ポイントを押さえた練習過程とそのポイントの選定等、効果的なスケジューリングをつくる。その中で無駄はもちろん、無理があつてはならない。しかし、結果的には無理の連続。これではたとえ合格しても、このリカバリは並大抵ではないだろう。

教訓その2

時が許すなら、2年計画で望みたい。

二部 (シーズン編)

自然は、自分の思い通りになるとは限らず、時として人間の自己中心主義の行きすぎを思い知らされる。

スキーは雪が必要であり、それは天然自然、神様のスケジューリングによるものであることを認識。そして、やつとの事でスキーができた。

何年ぶりのスキーも頭の方はまるで駄目だが、体は覚えてきている。

馴らしを戸狩で出来た。スキーは滑つてみて本当に楽しいものだ。しかしレコノの顔で滑るのはいくらも飽きてしまふ。

滑つてみて今シーズンの目標の高さを一つづつ知らされた。S A K のオエラ方から色々文句は言われたが、なんとなく行けそう。よし、がんばるゾ。

一度脱いだスキーを取り出し、自問自答した。そして結論。準備受検。もちろん反カアチャンも大賛成。もちろん反カアチャンも大賛成。もちろん反カアチャンも大賛成。...

今までのプランクを取り戻すため、今シーズンは徹底的に滑らねばならない。馴らしから始まり、

基本技術につき、みっちり教えられ、教えられた数だけ文句言われた。一つ一つの体の使い方、そしてその動きが何のためにどう役立っているのか。頭でわかっても、体で覚える訳がなく、体で覚えてない奴が、スキーできる訳がない。スキー教程をみっちり読んで徹底的にやってみよう。

そして実地の練習は、ギャップの処理がまずい。スキーは、スケートと違ってデコボコでも滑る。又、スケートと同じ様にアイスバーンでも滑る。『あなたスキーに来るんだったらトレーニングしてんでしようネ?』雪にならなわれ、ヤケ酒のんで高いビキ。でも、又、次の日もからかわれねばならない。悪い点は数あれど、どうしようもない最悪のポイントを指摘するサポートの役目は大変である。ときには見えないウソでは、どうしようもない悪性の欠陥が有っても『マア、そんなもんた』サポートになって、よほどのバカかキチガイがやるもの。

今頃の時期で歯を喰いしばつてがばらばらかどうか、目標に対する意欲の持続性がたまたま。スキー教程はスキーシーズン前でも読めるし、だいたい教程読んでもないで、準備受検のなんてアホが居るか、直前から甘味などは、その夜を、連日必死で教程とにらめっこ。少しは前もって、読んでくんだっ

教訓その7

疑問は旗と同じ、ぐる前に自分の方向は、決めておけ。

今までの総まとめのつもりで滑る。いいとき悪いときがまた6・4。なんとか8・2までは高めないとダメ。一つ一つの動きの中に筋道を立ててゆかねばならない。そのあとは表現能力だけ。スキーでやろうと思うと、本当に難しい。次にひかえた実技検定が恐ろしく、一年でチャレンジする自分の無謀さを半ばあきれ、くやんだ。

前期検定会では、理論検定とともに、研技研修会が行なわれた。第一印象、みんなヘタタクン! 第一印象、やつぱり自分もヘタタクン!

この研修会では、検定にポイントをしぼって指導してくれる。こういうときは、理論の検定もあり早く宿に帰つておさらいしたくなるが、徹底して滑ることが大切。みんな帰つてからも滑つた。おかげで時計も捨てた。

★注意点
① 講師に言われた事は、その場でメモ。
② 班分けて滑るときはトップで滑る。
③ 自分より、まじめな滑りをする奴を良く見ろ。
④ 普段練習できない種目(ゲレシユブ、等)は人の3倍やれ。戸隠も寒い志賀も本気で寒い。でもスキーには乗つても女には乗るな。目標は準備。理論は予想通り簡単であった。理論点は実技点をカバーするために大切。

★注意点
① スタート前に深呼吸とポイント整理。
② ゼッケン番号を大きな声で、その後、深呼吸してスタート。
③ 前の奴と逆のプレターンで入る。
④ コース上の難所を知れ。

前日の失敗の原因をたかめ
⑥ リラックスした滑りは、自信から

◆第二日午前
④ バラレルターンA
⑤ シュテムターン
⑥ ブルークボーゲン
⑦ 不整地直滑降
⑧ バラレルターンB
⑨ ゲレシユブ

★注意点
① 人の滑りを見るな。自分の前の1〜2人見れば充分。
② 一回の滑りは、それまでの過去の練習の凝縮である。
③ 精神の集中を練習せよ。
④ 5人後になったらスタート準備せよ。

◆第二日午後
⑫ 制限滑降(編集者註 各種目毎に状況説明あるも省略)
最初はリズムを大切に、後半は加速して滑る。
これで何人不合格にしてやるかとハッスルした。%の者が不合格のため2本目あり。
ちくしようと思つて又、すつとばした。ポールは楽しくてしようがない。スキーはこうでなくチャン。

★注意点
① 注意の羅列でなく、ポイントを入力したCARDを常にもて。
② 自分でコースを決めたら変えるな。
③ リズムをとれ、なめらかなリズムを。
④ コンディションコントロール補助。
以上のことから2人は必要と思われる。

最終日の発表会場では、緊張は高まるばかり。合格していないはずはないと思つても発表されるまでは、やはり不安である。一位より、氏名が呼ばれ始め、十何番目か自分の名が呼ばれたときは、ビックリしたが、嬉しかった。今までの苦労が、本当の苦労として感じられた。本当に嬉しかった。

教訓その9
スキーはハダシですもの、風呂はハダカで入るもの。
来たぞ準備検定本番。雪質良、快晴、風弱し、絶好のコンディションである。こんなに良いコンディションで臨めるとは期待すらしなかった。スケジュール、パーン、及び時間が発表になると、ゾクゾクしてくる。やつと来るべき時が来たという何とも言えぬ緊張感が満ちてくる。

◆第一日午後
(一) 横すべり
(二) ウエーデルンA
(三) ステップターン
★注意点
① スタート前に深呼吸とポイント整理。
② ゼッケン番号を大きな声で、その後、深呼吸してスタート。
③ 前の奴と逆のプレターンで入る。
④ コース上の難所を知れ。

◆第二日午前
(10) 統合滑降
(11) ウエーデルンB

でも第一日の午後の滑りが気がかりで有る。こういう自分の不調時におけるサポートの心使いは、コンディションの立ちなまりに随分と助かった。
又、余り他人の滑りを見ると自分のポイントを見がしてしまふことから、サポートよりの状況分析に基づく注意の指示は本当に助かる。

教訓その10
サポートの役割
① 他人の滑りを含めた的確な状況分析に基づく提言。
② 緊張感の緩和。
③ 過去の練習に基づくポイントの指摘。
④ コンディションコントロール補助。
以上のことから2人は必要と思われる。

最終日の発表会場では、緊張は高まるばかり。合格していないはずはないと思つても発表されるまでは、やはり不安である。一位より、氏名が呼ばれ始め、十何番目か自分の名が呼ばれたときは、ビックリしたが、嬉しかった。今までの苦労が、本当の苦労として感じられた。本当に嬉しかった。

教訓その11
苦労が苦勞と感じるときは、それがむくわれたときである。
エピソード
これで、ともかく新たに指導員としてスタートした。赤ん坊がオキヤと生まれた様に、まだ指導員としての資質を何も持たないが、これからは、又、次なる新たな目標に向つての苦労が始まる。その苦労を本當の苦労にするために、私に指導して下さった方、又、応援して下さいの方に、心よりお礼を申し上げますと共に、これからの私の活躍に期待して頂きたい。

教訓その12
今日がある。明日がある。その明日の中にも私はいる。

参加希望者が四名という少数の為、東京都スキー連盟に委嘱して実施する予定だったが、委嘱先の東京都でも参加者が少数で実施出来ないという事なので、やむなく本行事は中止にした。

「全日本スキー連盟 公認。パトリール受検 合宿、やむなく中止」

日赤救急員 二十九名誕生

日赤救急員正規養成講習会は去る、十月二十一日より、十二月四日までの毎日曜日、横浜文化体育館平沼記念レストハウスと県立労働会館で実施された。

講習会は器材を導入した内容の充実したものであり、全日程を終了した三十二名が受験して二十九名がめでたく合格した。

合格者には、日本赤十字神奈川支部事務局長より、適任証が交付された。

合格者(敬称略順不同)二十九名
飯山やよい 池田雅春 木伏恒雄
飯原山子 穴沢智子 佐藤均
萩原美子 増井節子 中町克也
佐藤 二男 菅原 功 高島重治
榎下 正巳 荒川 博 中島恵子
榎本 明 長島輝雄 犀川一郎
山岸あや子 飯山 修 佐藤次男
堀内 吉雄 高橋 誠 金沢忠男
中島 英吉 島津孝亮 木村信男
榎本千恵子 伊藤裕之



◆完◆

技術は生き物である

新デモ4名含め SAKデモ選了

昭和54年度SAKデモ選了... 参加者数52名で、1月25日15時... 戦いはシユエタムンでその口火... 脚のなめらかさ、スムーズな角... 採用(5人の選考委員で、上下を... 行われ、各選手複雑な心境であ... 行われ、特に現デモは、アシスタ... タント中のナバスの表情が思い... 出される。

選考委員は、総合滑走、パラレル... (B)とすすみ、1日目の予定種目を... 終了した。... 公式成績が発表されると、思い... 思いそれらに見入っていた。

2日目、急ウエからのスタート... である。コースは荒れて滑りに... くそうである。リズム、脚部の有... 効な動き、スピードな角付けの... 切りかえ、等々厳しい審査の目は... 光る。



選考委員は独特のムードの中で、... 堀、十四位鶴淵(エリナス)、十五... 位田場川(国鉄中原)

成績... 一位倉倉(相ハローニー)、二位藤... 原(横ユール)、三位渋谷(大ス... キー同好会)、四位上田(SOS)、... 五位東海林(アスペン)、六位及川... (クワイツ)、七位細川(大和ス... キー同好会)、八位原田(リイベン... 九位義達(大和スキー同好会)、... 十位浜島(ド・ネージュ)、十一位... 山田(コンパニオン)、十一位加納... (ド・ネージュ)、十三位清水(平... 塚)、十四位鶴淵(エリナス)、十五... 位田場川(国鉄中原)

私が群馬県の上温泉山奥から上京し、神奈川県に在住したのは1957(昭和32年)6月でありました。年令15才紅顔の美少年(?)と言えたかどうかは別として、あどけない童顔を頑健な身体にくっつけて不安を胸に抱きつつ、見ず知らずの土地へ飛び込んだのが鎌倉市でした。地方出身の私が雪の無い鎌倉に住み、スキーが出来るとは思ってもいませんでしたが、スキーを行うことが出来たのは、先輩で同郷の大竹清(現水上町助役)氏と同じ勤務先であったのが幸いし、その手管から横浜スキークラブに入会できたことから現在まで続けられた一つの要素でもあります。神奈川県各スキー大会に参加できる所以でありました。当時の神奈川県スキー連盟の手選考は全日本選手、県選手、国体選手を兼ねており、予選に通過すれば、全日本と国体に出場できる権利を持たない訳です。会場は新潟県の上温泉スキー場から長野県の野沢温泉スキー場へ移った時点で現在の野沢温泉スキー場とは比較になりません。大回戦に出場するのはリフト一基に乗り、下車してから出発地点まで、エッチラ、オッチラ歩いて登ったものでした。その歩きが身体の筋肉をときどきほぐし、出走前の良いジョギングとなったことを覚えておきます。クロスカントリーは長距離8km位のものがあつて2周し、1レースで2種目の勝敗を決するという楽しみのある方法でありました。1周目で長距離優勝、2周目で負けて耐久レースの優勝を逃すことになつたりしたものです。少年組でも長距離出場者が12名程度はあつて少数激戦として社会人同志の力の競り合いをし、青春の情熱をおもいきり自然にぶつけて技を競い合ったものです。アルペンの選手がコースに入りノルデック競技を

はかれますが、30代後半からは年々低下がみえてしまいます。それは或る年代になると責任ある立場に置かれることもありましよう。あるいは体力の減少からということもありましよう。そしてまた精神的にも段々と落ちていく周囲の条件を自然と受け入れてしまひ、みず知らずのうちに技術の低下を招いていると思ひます。そこで青年時代の力を技術を持続させ強いては向上させるには「滑走量を年増すこと」を増加させること、または従前の滑走量を維持すること」の一言につきるのではないでしうか。このことが年をとっても強さを発揮できる秘訣であると思ひます。思ったことを書きつらねましたが、私の「初出場の想い出」と共に「国体入賞者多く」をめぐりて取組んでいるであろう県連の皆様に少しでも理解されとすれば幸いです。県連の発展を期待したい。

ある国体選手の回想

横浜スキークラブ 若旅 経男

予選には私も少年組で初出場、長距離に勝ち喜びが昂じて、その夜はなかなか寝つけられなかつたことを思い出します。大回戦でも国体出場の権利を獲得した時の万感胸にせまった想い出は、忘れ得ぬものです。右も左も分らぬ少年が国体出場となり、先輩の方々と共に夜行列車で一路山形県の蔵王スキー場へ向つたのが、列車の中は椅子の下や通路新聞紙を敷き雑魚寝の有様、寝苦しい思いをしつゝもただひたすらに皆んなの後について行つた自分が高つた。長距離出場あきらめ、大回戦一本に絞つて鳥居の頂上をスタートしゴールめざして思いっきり飛ばして前に滑走した選手に追いつき併走しながら2人が同時にギャップに飛ばされ、同時に転倒したことを記憶しています。

3つは、特に国体に出場する選手には国体出発以前に合同の強化合宿を3〜4日計画し、選手の連帯と切磋琢磨を目的として選手間での技術向上をはかり、そして国体直前の調整合宿をし、競技に臨むことが必要でしょう。雪の有る県でさえも国体出発以前に必ず強化合宿を行い強化してから国体に臨んでいくことからして雪の無い我が県の選手が入賞を必要とするのは火を見るより明らかである。選手以上に県連役員の方々の大変な努力が必要となるでしょう。

雪不足で始まったスキーシーズンも終わつてしまひます。今シーズンも初期に練習が出来ず出遅れた感がありましたが、ここ一ヶ月余り調子も充実して来たように思ひます。先月初めにデュアルレースに出場し、二度目のチャレンジで12本滑り優勝する事が出来た。今迄にない勝利感を味わう事が出来ました。プロの間では盛んなこのレース、なかなか面白いものでした。二人同時にスタートし、赤、青とコースを換え一度滑るもので、重要なスタートテクニック、ジャンプでの着地、横を滑る相手に先に出られると気持ちの焦りで自分の必要だと考えます。

今年の最後の競技会である県選手権大会において、私は栄誉ある最優秀選手の表彰を受けたことは光栄に思ひます。私としての本年度の各競技会を振り返って見ますと、一月の予選会では、身体が強化合宿のときのように動かず、苦しいレースになり、惨敗してしまつた。このときは、もうレースをやめようと思ひました。しかし国体選手になり、国体では頑張りうと気を取直して、一月の国体に

高島美秋(専大)三冠!!

第35回国体スキー選手選、第58回全日本スキー競技会予選会兼第2回神奈川県民スキー大会は、さる1月17日(金)長野県戸隠高原スキー場において開会式を行い、三日間にわたり競技がおこなわれた。昨年末とは違い、この大会からすべて自主運営に切り換えられたが、選手自身が旗門員となりまたコース整備をし、全種目を無事終了した。

総務部だより

今年の総務部は、事務所の移転創立四十周年記念祝賀会の特別な行事もあり多忙のシーズンにじりめでありました。四十周年記念行事は、全日本スキー連盟、伴会長をはじめ多数の来賓、および県連会員の参加を得て盛大に開くことができたことと紙面を借りてお礼申し上げます。さて、総務部の一番の仕事であります登録業務ですが、(こ)二三年減少気味でありました。会員登録が増えることができた。これを報告し、これからも、会員登録を一名でも多くされることをお願いいたします。

編集後記

編集後記の枠が決まらない四月三日、クラブで志賀えりうのバスの中、右手に、鉛筆、左手にグラスで原稿書きを始めた。ヤメタ翌日快晴で、スキーを終日たのしんだ。疲れた。ヤメタ四月六日帰宅し、眠い目をこすり、必死に「二五〇〇」字を用意したのだ。が、ごらんの通りとなりました!!

最優秀選手賞を受けて

杉本 満(東芝)

今年の最後の競技会である県選手権大会において、私は栄誉ある最優秀選手の表彰を受けたことは光栄に思ひます。私としての本年度の各競技会を振り返って見ますと、一月の予選会では、身体が強化合宿のときのように動かず、苦しいレースになり、惨敗してしまつた。このときは、もうレースをやめようと思ひました。しかし国体選手になり、国体では頑張りうと気を取直して、一月の国体に

大原 伸悦

スキーがでなくなる恐れもある事など、相手が一本目に旗門にひつかけた時一本目は1.5秒のハゲが付く。増々プレッシャーが掛り、レースは白熱していく訳です。トナメント方式で、10本から12本も滑る事も珍しくなく、技術力、精神力、スタミナ等が要求される競技でした。気をむまばかりだったシーズン初めの雪も上越で四月中旬迄は滑走可能のようです。そんな訳で残り少ないシーズンをエンジョイする為にもっとトレーニングに精を出す毎日です。

高島美秋(専大)三冠!!

- 第35回国体スキー選手選、第58回全日本スキー競技会予選会兼第2回神奈川県民スキー大会は、さる1月17日(金)長野県戸隠高原スキー場において開会式を行い、三日間にわたり競技がおこなわれた。昨年末とは違い、この大会からすべて自主運営に切り換えられたが、選手自身が旗門員となりまたコース整備をし、全種目を無事終了した。
全日本選手「大回戦」全長1250メートル、平均斜度19度、最大斜度33度 旗門数52
▽男子 ①高島美秋(専大) 1分24秒79 ②羽賀清(横浜スキー) 1分25秒88 ③菊地富夫(横浜スキー) 1分26秒01
▽女子 ①大下桃子(日本女子) 1分36秒28 ②中野恵子(横浜アルペン) 1分41秒43 ③大内美紀(アールベルグ) 1分41秒62
【距離】男子12・9キロ、女子4・3キロ
▽成年男子1部 ①松坂雄治(専大) 41分10秒 ②菊地日出夫(横浜スキー) 41分49秒 ③笠原清治(東芝) 43分28秒
▽成年男子2部 ①藤本豊(日産車体) ②杉本満(東芝) ③相和茂(日産車体)
▽成年男子3部 ①金誠(一東芝) 47分44秒 ②北川松男(横浜スキー) 47分45秒 ③堀光年(東芝)
▽女子1部 ①田村専美子(東芝) 24分05秒
国体予選「大回戦」全長1100メートル平均斜度20度、最大斜度33度旗門数46
▽成年男子1部 ①高島美秋(専大) 1分15秒64 ②加藤与志則(専大) 1分16秒02 ③羽賀清(横浜スキー) 1分16秒67
▽成年男子2部 ①深見和男(横浜スポーツマン) 1分19秒45 ②川口典夫(横浜スキー) 1分20秒94 ③清水和年(ソニー厚木)
▽成年男子3部 ①荒木豊志(車電コロボックル) 1分21秒21 ②若松経男(横浜スキー) 1分21秒93 ③小野寺直忠(横浜スキー)
▽少年男子 ①乾友浩(横浜高) 1分18秒74 ②中島孝夫(東京)

